



見えてきた！ わたしたちが待ち望む 新病院のかたち

平成27年5月開院へ向け、
いよいよ建設の歩みが本格化！



岡谷市新病院基本設計が完成。 これからの新病院整備事業は？

完成予想図(南東面からの見上げ図)
※建物壁面の「岡谷市民病院」は仮称です

平成23年度の取り組み

6月	プロポーザル方式により「日本設計・サイト設計 共同体」と契約締結
6月 ↳ 10月	先進病院の視察と調査研究 職員とのヒアリング・意見交換実施 医師会・歯科医師会・県との協議
8月	整備方針案を報告
11月	敷地・各階ゾーニング計画案を報告
12月	市民説明会(5回)で説明・協議
2月	各階の平面計画・事業費と財源計画案を報告 市政懇談会(6回)で説明・協議
3月	ユニバーサルデザインへの対応・災害対策など 全体の方針を決定し基本設計完成

建設のスケジュール

		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
設計・ 手続 き	基本設計		■				
	実施設計			■			
	免震評定			■			
	確認申請 工事入札			■	●		
工 事 関 係	博物館・旧婦人の家解体			■			
	新病院本体工事				■ 約22か月		
	本体外構工事					■	
	開設準備・引越し						■ ●
	既存病院解体						■
	駐車場整備						■

平成24年度は、工事着工に向け、より詳細な実施設計に取りかかるとともに、既存建物や施設の解体工事に着手していきます。事業の進行状況は、これからも随時お知らせしながら、市民のみなさんとともに、よりよい医療が提供できる市民病院をめざして、取り組みを着実に進めます。

基本理念の「思いやり」を実現する 計画が進行中!

基本方針

- 「患者中心の建築計画」
- 「機能的で働きやすい建築計画」
- 「災害に強い建築計画」
- 「経済性を考慮した建築計画」

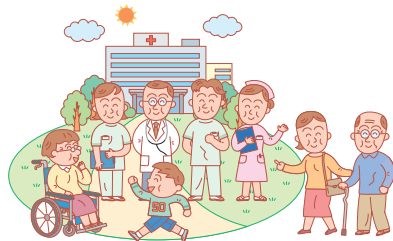
整備方針

- 岡谷市のまちづくりに貢献する
- 「救急」、「連携」、「安全・安心」を市民病院の「3本柱」とする
- 特徴的な医療分野を持ち、市民や職員にとって誇りに思える病院をつくる
- 高齢社会に向けて健康寿命を伸ばす医療を推進する
- 将来の社会情勢や医療需要の変化に効率よく対応できる建物とする
- 機能的で働きやすく、快適な建物とする

考え方をかたちに反映

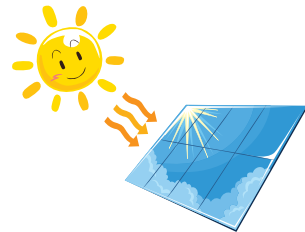
人にやさしい ユニバーサルデザイン

患者さんやその家族、病院に来院する多くの人々が「わかりやすい」「快適」と感じられるように、快適性や安全性を使う人目線で追求。基本理念に掲げる「思いやり」の実現を、バリアフリーなど設計面に反映します。



積極的な環境への配慮

自然換気システム（エコボイド）の採用や、太陽光、地中熱、雨水、井戸水などの自然エネルギーの有効利用に努め、ランニングコストの低減を図ります。



安全・安心の拠点として 災害対策を万全に

大規模な地震や自然災害が発生した場合でも、病院の機能が維持できるよう、免震構造、透水性アスファルト舗装、雨水貯留槽などを採用します。

また、災害時でもエネルギーが滞りなく供給できるよう、無停電電源装置、非常用発電設備による停電対応、給水機能の確保、非常用医療ガスの設置などの対策を行い、医療が継続できるよう計画します。



事業費と財源は?

【事業費】

項目	金額
基本設計	5,250万円
実施設計	1億4,000万円
工事監理	7,000万円
工事(本体)	63億円
敷地整備	6億6,000万円
医療機器	10億円
繰上償還	5億6,300万円
病院移転	8,000万円
事務人件費	1億1,000万円
事業費計	89億7,550万円

【財源】

項目	金額	
企業債	70億9,600万円	79.1%
長野県地域医療再生事業補助金	11億2,000万円	12.5%
病院事業会計	3億2,525万円	3.6%
一般会計	3億2,425万円	3.6%
その他	1億1,000万円	1.2%
財源計	89億7,550万円	100.0%

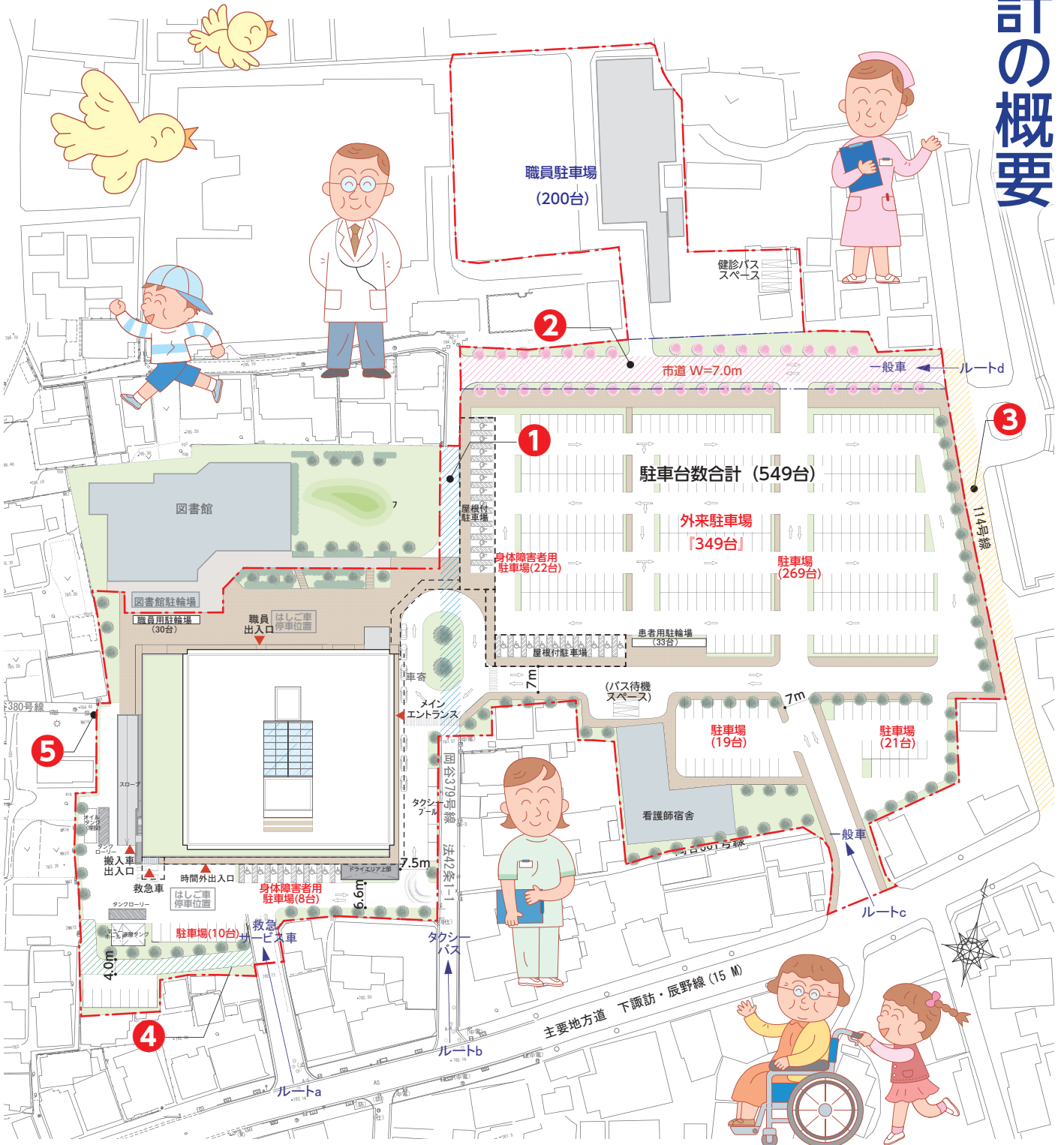
できるだけ費用圧縮・抑制に努めることを基本的な考え方とし、現時点では、表記の金額を上限と位置づけて計画を進めていきます。



基本設計の概要

敷地計画のポイント

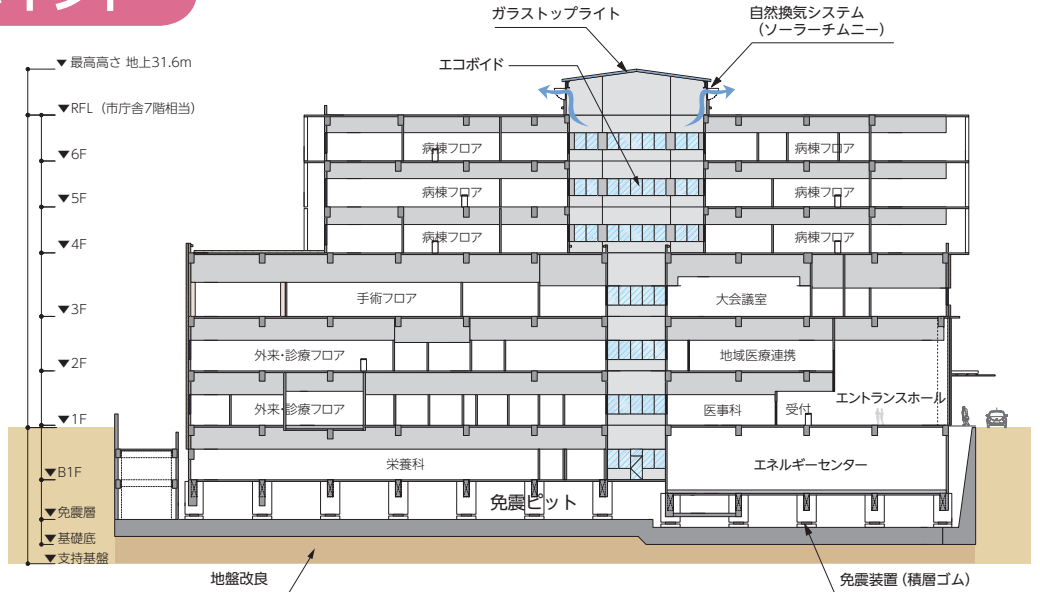
- ① 駐車場から病院への歩行者の安全を確保するため、現在の病院敷地と新病院敷地を分断している「市道岡谷379号線」の一部を廃道にします。
- ② ①の市道廃道の代替道路として、市道を新設し、周辺住宅などへの影響を回復するとともに、北側からの通行を確保します。



- ③ ②の新設市道と接続する「市道114号線」を拡幅改修します。
- ④ 新病院建物の南側にある隣接住宅への接続道路を移設し、敷地の一体化を図ります。
- ⑤ 救急車両やサービス車両の通行を確保するため、「市道岡谷380号線」から敷地内への一般車両の進入を禁止とします。

構造計画のポイント

- 建物は、地上6階、地下1階建て。地階を設けることで地上部の高さを抑え、日影やビル風、圧迫感による近隣への影響を軽減します。
- 1、2階に外来診療部門を集中配置し、来院者の利便性と医療効率をアップします。
- 建物を免震構造とし、地階にエネルギーセンターを設けることで、震災時にも医療機能が継続して行えます。
- 建物中央に、エコボイド（吹き抜け）を設け、病室などへの十分な自然採光と心地よい自然換気を実現します。



おもな階のポイント

【1階】

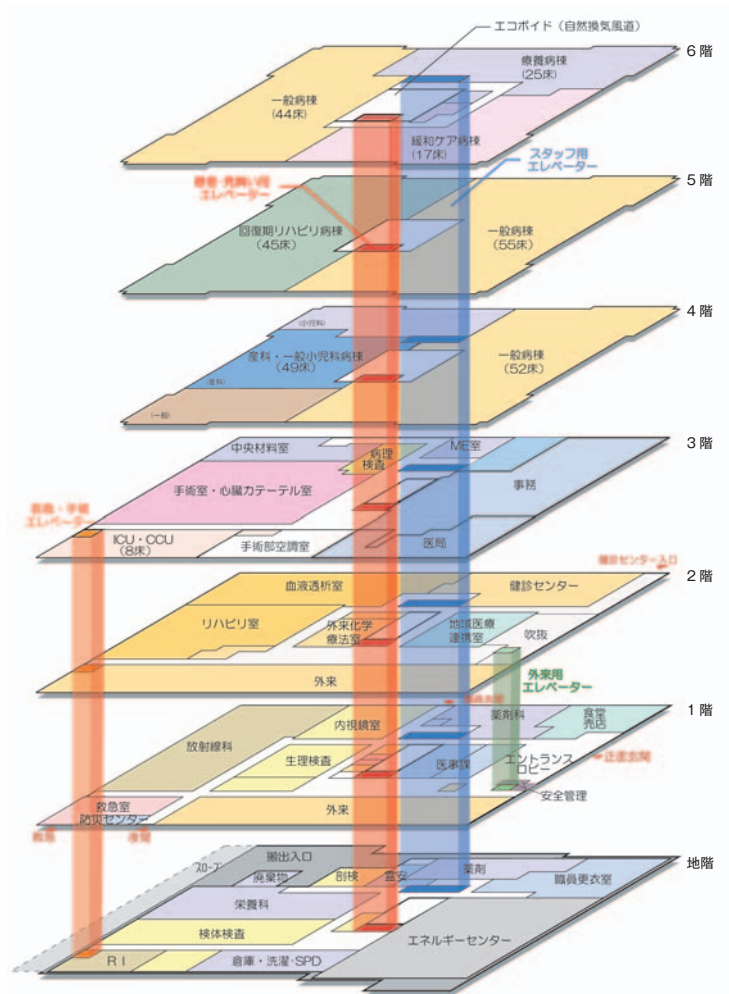
- エントランスロビーは開放感ある吹き抜け空間で、医事課、薬局の投薬窓口、外来をわかりやすく配置します。
- 外来に近接して、関連のある内視鏡室、生理検査、放射線科を配置します。
- 救急室は、診察室を増やし、感染症患者専用の診察室を設けるなど拡充を図ります。
- 救急入口に併設して時間外出入口を配置。防災センターで施設管理および安全管理をチェックします。
- 食堂・売店を併設し、食堂の営業時間外でも休憩利用ができるスペースを確保します。

【2階】

- 外来は1階に連動した同じ位置に、わかりやすく配置します。
- 新たに入院患者向けの歯科を配置します。
- 健診センター、地域医療連携室を利用しやすい場所に配置します。
- 血液透析室は、患者動線や静かな環境に配慮し、30床を計画します。
- リハビリ室、外来化学療法室を拡充します。

【4～6階(病棟)】

- 病床数は全295床。一般病室は4人部屋を基本とし、ゆとりある空間（広さ）を確保するほか、全室トイレ付とするなど、アメニティー、療養環境の向上を図ります。
- 高齢化社会に対応し、健康寿命を伸ばすための回復期リハビリ病棟45床、医療型療養病棟25床を設けるほか、「がん医療」の支援病院として、緩和ケア病棟17床を設



けます。

- エレベータは、「外来患者専用」「救急専用」「患者・見舞客用」「医療・職員専用」に分離し、効率的に運行します。